

平成21年度第1回愛知県道德教育推進会議協議の概要（議事録）

日時：平成21年7月7日（火）14：00～16：00

- 1 開会
- 2 愛知県教育委員会あいさつ（義務教育課長）
- 3 委員紹介
- 4 議長・副議長選出
 - ・ 議長 中野 靖彦 委員
 - ・ 副議長 阿部 秀子 委員
- 5 議長・副議長あいさつ
- 6 議事

協議題：人間関係を築く力や社会性を育む道德教育の在り方

〔報告事項〕

- 平成21・22年度 愛知県道德教育推進会議の協議題について

〔協議事項〕

（1）第1回 愛知県道德教育推進会議協議内容について

ア 子どもたちの人間関係を築く力や社会性の現状はどうか。

イ 子どもたちの人間関係を築く力や社会性を育むには、どのような手だてがあるか

議長： 協議題について、まず、現状についてご意見をください。

委員： 不登校の背景として、子ども自身の人とかかわる力が育たないまま小学校に入学してしまい、落ち着きがない。低学年の先生が、導いても集団としての力が付かないまま中学年に上がるので、明確な理由がないのに学校に行けない子が小学校で少し増えている。中学校では、学級編成とか、部活等ごく身近な人間関係でのトラブルで欠席がちになる。自立心が高まってくる時期なので、家族の中での自分を考える。反発反動的なもので、不適合な行動を取りがちである。最近の傾向として友達や地域などのサポートする力が弱くなってきている。子ども自身もサインを早く出すことができなくなってきている。先生はがんばっているが、追いつかないほど、子どもたちの成長の速度、発達が遅れている。

委員： 保護家庭、準要家庭の数が増えているが、財政的に厳しくて公的に認められない。かつては、民生委員が、援助や配慮を考えていた。現在は、そういう面がやや薄くなっている。学用品が無いので、辛い思いをする。修学旅行に参加したいが現実にはできない。肩身の狭い思いをさせるような現実がある。そういうところを我々が学校が地域がどう配慮していくかということを思った。設定理由にかかわって、直接こういう事柄に触れてもよいのではないか。

委員： 家庭教育をベースにして、学校では、集団生活の中で、人間関係や社会性を育てていくという立場でいったときに、人間関係を育む力や社会性を築く力が無くなってきたということは、学校教育の責任ということかなということになるが、それはやっぱり子どもを取り巻く育ちの部分の中でいろいろ変わってきていると思う。改めて取り上げなくてはいけないということは、家庭教育も含め地域の教育力も含め、そういうところを深く掘り下げ、それをどう学校教育で取り組んでいくのかというのが協議題の意味だと思う。

委員： 子どもたちの遊びや他者とのかかわりの減少や体験不足の現状はここにいる人は、共通認識ができると思う。その関係と人間関係を築く力というところとの間に、我々はまだ何か作用していかなくてはならないものがあると思う。他者とのかかわりというということで、どういう関係が築けずにいるのか、どう

いう減少になっているのか、社会体験が少ないためにどういう姿になっているのかということについて、もう少し、聞かせていただきたい。

議長： 発達が遅れている、人間関係が弱くなったと言うが、私はそんなに思わない。能力があるのに発揮できない、表に表せなくなってしまう家庭、地域、社会はどうなっているのか。本当にどういう点が欠けているのかを探っていないといけない。

委員： 本校は、集団登下校を行っている。その中で、よくトラブルが起きる。例えば、上級生が下級生の世話ができない。下級生が言うことをきかない。1年生から、上級生に刃向かっていく。全体指導をしても、個別指導をしても直っていない。そういうところが一番表に現れている部分だと思う。

議長： そのために学校では、異学年で交流し、上の子が下の子を、下の子が上の子を見ながら学ぶということをやっていると思うのだが。

委員： この頃すごく思うのは、目上の人を敬うという気持ちが無くなっている。低学年が落ち着かないということも現状としてある。自分勝手に、トラブルばかりと感じる。家庭でも、おじいさんを敬ったり、お父さんお母さんを大事にしたり感謝をしたりしない。同等だと思っている。

委員： 子どもたちが能力を発揮できないのではないかということだが、大人は「まず自分のことをしなさい。」「自分のこともできないのに……」ということ年数を重ねている。中学高校になるとそういう発想は育たなくなり、しようとも思わなくなっている。そういうところに反省がある。道徳の授業でも、改訂でも、価値の大切さを教えていて、かかわりの中での大切さに焦点が当たっていないのではないか。一人で楽しいか。集団でやるから楽しい。というようなことを根気よく教師が教えていくべきではないか。

議長： 大学で、トイレでひとりで、便器に座りながら食べるということが起こっており、禁止という貼り紙があるそうだ。そういう人が社会へ出る。一緒に食べた方が楽しいのに、一人でトイレで食べた方が安心できるという世界に入っていくてしまうというのが恐ろしい。

委員： 幼稚園というのは、一番初めに入ってきた社会なので、そこで、先生というものがどういうものか教える。親が下がりすぎている。今は、親が我慢することを教えない。我慢しなくてもいいよ、そんなに無理しなくてもいいよという社会が多くなってくるんじゃないか。実際教員でも我慢できない。嫌なことがあるとそこから逃げようとする。そこから前に進めない。結局辞めてしまう。親も、辞めてしまえばと言ってしまう。社会では、学校では、我慢すべきだと認識して伝えていく必要があるのではないか。何かあったときに逃げってしまう。どこまで許していいのか親も分からない。

議長： 子どもたちをできるだけ早く対等の立場で育てようとする傾向があり、一人前と思わせてしまう。どうしてこうなったのか。

委員： 今は、親が子どもに馬鹿にされている。子どもは子ども。子どもの要求ばかりを聞いてはいけない。親にいろいろ言うと跳ね返りがあるのでなかなか言えない部分があると思う。親が怒らずにおばあちゃんが怒る。バーバは、怒るから嫌いと言われる。何が解決になるか、とても難しい。

議長： 指定校として研究しながら思われたことはないか。

委員： 中学校としては、様々な感じるところがある。子どもは、地域の環境の中で育つということがある。ただ、田舎の学校でも、子どもたちの幼さを感じるこ

とがある。今の社会で無視できないのは、ネット社会であるということ。これは、都会も田舎も関係ない。携帯メールに起因する、人間関係のトラブル、いじめについては、われわれが認知している以上にあるだろうと思う。今の子どもたちの置かれた状況を見ると無視できないと思う。

議員： 子ども達を育む手だてを考えなくてはいけない。養護教諭の立場からどうか。

委員： 20年くらい保健室の仕事をしている。周りの大人を困らせる子どもがよく来る。学校生活の主になるところの学業で振るわなくて自分の価値が揺らいでいる子ども達、本来家庭などで身に付けなくてはならないところが経験できずに小学生中学生になってしまっている子がふらっと保健室に来る。そういう子ども達がそのままかという、そうではないと信じている。気持ちが荒れているときは、何を言っても。受け入れる余裕がない。認められたり、いい思いをした後は、染み入るように聞いてくれる。そういう実践が学校で数多くあると子どもたちがいっぱい救われるのではないか。

議長： 人とのかかわりが少なくなっている。

委員： 警察というと、特に最近思うのは、ネットの使い方について。家出したい女の子がいる。行くところが無い。ネット上の家出サイトに留男の書き込みがある。そこを頼っていけば、性的な関係を求められるのではないかと頭をよぎるが、留めてくれるならそれはそれで仕方がない。自分に対する評価が低いし、かかわりを現実ではなくバーチャルの世界、疑似人間関係に求めて行ってしまった故に、そういう性的な被害に遭ってしまった。最近非行の中には、出会い系サイトにアクセスする子どもが多い。自分の普段の世界でかかわれる人間関係をつくっていけないので、そういう世界を求める。どうすればいいかを皆さんで考えなくてはならない。

議長： ネット社会の中で育っている社会性と顔を合わせていく中の社会性は違う。社会性は、築いていかななくてはならない。

委員： 名古屋へ出てくると、若い男女が、公衆の面前でチュッチュとしている。人が居ようか居まいが、関係ない。三つ子の魂百までの辺りまで手を伸ばさないと解決しないのではないか。すべての人を無視して自分の世界だけがある。

議長： 学校だけでできるわけではない。家庭や地域とどう協力していけるか。学校がどう支え、学校の取組をどう家庭の中にフィールドバックできるか。

委員： 子どもたちが、親から、学校から受け入れられていない。受け入れられる場所で真実の姿を見せる。国の事業でも同じような議論があった。親から、自分の直近からほめられることも意味がある。知らない人からほめられることの大切さが事例としてたくさん報告されている。自分の誇り、心の置き場所を他人様から与えられる。人間関係をつくっていく上で、尤も基本的なところにある。

議長： 少子化で、かなり大事にされていると思うが、なぜそれなのだと思う。

委員： 補足すると、自分が選択して行った、苦勞して、他人のために犠牲を払ってやった行動ではないということが基本にある。少し気持ちを発してやったときに、他人から受け入れられること。今の子には、ほとんど無い。

議長： ついつい手を出してしまう。自分がやってもできないんだ。とってしまう。

委員： 子どもが悩めなくなっている。すぐに解決方法を教えてしまう大人がそこにいる。でも、うまくいかない。小学校の授業参観をすると、特徴として、子どもたちが指示待ちである。中学校へ行って、もたない。PTAなど地域にいろいろな機関があるが子ども不在になりがち、サポート機関が繋がっていない。

議長： 夕食の話題に共通性がない。実体験を作っていないといけないと思う。

委員： 学校では、異学年での取組。上の学年が面倒を見ることで、幅広い人間関係をつくれるようにする。クラブ指導などボランティアなど幅広い人とのかかわりで、礼儀や感謝の気持ちなどを育てることで、社会性を身に付けていけるようにする。家庭では、職場や学校での出来事を話題にすることで、一緒に会話をする時間を確保する。家族がコミュニケーションを取ることで、人間関係や社会性の基礎を身に付けることができるようにする。登校指導や下校指導、地域探検などで、地域の方々の支援をお願いする。挨拶やお礼が自然に言えるような礼儀正しさを学ぶことで、人間関係や社会性を学ぶことができる。

議長： 脳学者がいうには、我々は、先読みするが、日記は、過去を振り返って、それで、話題になる。先へ先へと目が行きすぎて、過去に目が行かない。今日あったことを振り返って反省することも大事。

委員： 少子化で、親が周りを読み過ぎる。手をかけ過ぎ、社会に出たときだれも構ってくれないとわがままを言うことになる。幼稚園で、母親達に、自分の勝手に子育てをしていかにないように、子どもがどんな状態かということを考えて子育てをしていくように言っている。子どもの学校で靴を揃えるということをやっている。中学校1年生に入ったときにできるようになった。一人でもやらない子がいれば、できない。やったときの達成感がある。学業的には、優れた子が率先的にやっていた。先生方がほめてくださって、自信になった。修学旅行に行ったときにも挨拶でほめられた。

委員： 失敗体験が少ない。それも一つの原因かなと思う。2歳の子がいる。自我が芽生えて何でも自分でやると言う。自分でやって失敗するが失敗した本人は悪い顔をする。それが体験だと思う。それで、何が良くて何が悪いのかを考えていく。親も含めていろいろなところでオールマイティーな完成を望んでしまう。

委員： 今の時代は、俺のことは言うな、その代わりあなたのこともとやかく言わない。そういう時代ではないか。そういう考え方が親にあり、子どもが親の姿を真似て学校に来てそういう姿勢で生活している。それが今の現実ではないかという認識が基底にあって、道徳教育を考えていかななくてはならない。どのように育てなければよいか。固まっているのだから、それを解きほぐすようなシステムや行事を作っていく。学校でも地域でも、一つテーマを作って、そのテーマに基づいてグループを作って、活動を重ねていけば、その部分については、友達と語ることができるのではないか。開放的な子ども関係をつくるのは、難しいが、目的に合わせて心を開くというようなことはできるのではないか。

事務局： ここで話し合った内容を広めていくよい方法はないか。

議長： 本当は、毎日眼にできるようにした方がいい。

委員： しつけの木作り、絶対に身に付けさせたいことを書いて、貼ってもらっている。学校で、確認していくと定着していく。

議長： 昔の週訓のように、していくとかなり違ってくるのではないか。

委員： クラスの目標を書く欄があってもよいのでは？

委員： 啓発グッズのクリアファイルやリーフレットに印刷して、課で行う行事などで配ることができるのではないかと思う。

(2) 平成21年度 愛知県道徳教育推進会議の計画について

7 研究推進校の進捗状況について

8 閉会